

## 「特産種苗」バックナンバー

当協会のホームページに、PDF版を掲載しています。  
「特産種苗 情報誌」で検索してください。

号	発行年月	特集内容
1	2009年1月	創刊号、雑豆（小豆、菜豆、その他）
2	2009年4月	雑穀（アワ、ヒエ、キビ、その他）
3	2009年7月	ハトムギ
4	2009年9月	雑穀類の生産状況（平成17～20年産）
5	2009年10月	油糧作物（なたね、ヒマワリ、ゴマ、オリーブ）
6	2010年1月	甘しょ
7	2010年4月	ばれいしょ
8	2010年8月	アマランサス・キノア
9	2010年11月	雑穀類の生産状況（平成17～21年産）
10	2011年3月	ソバ
11	2011年8月	6次産業化



## 編集後記

### 【編集後記】

本号では特集として、甘味資源作物として代表的なてん菜、さとうきびを取り上げました。

最近甘味控えめがブームとなっていますが、これらてん菜、さとうきびを原料としてつくられる砂糖は食生活に欠かせない食材です。砂糖の国内自給率は約4割で、国内生産の約8割が北海道で作られるてん菜糖、約2割が沖縄県、鹿児島県等で作られるさとうきび糖といわれています。

てん菜は北海道において畑作農業の基幹作物であり、輪作体系上重要な作物ですし、また、さとうきびは鹿児島県南西諸島及び沖縄県における基幹作物です。ともに我が国の重要な甘味資源作物として農業、さらには地域の経済・社会を支えています。

しかし、砂糖は国内産と外国産との間に大きな価格差があり課題となっています。このため、てん菜は農業者戸別所得補償制度が、さとうきびは

品目別の経営安定対策等の施策が講じられています。

また、てん菜、さとうきびの利用形態として砂糖の原料以外にも様々な取組がなされていますが、最近では砂糖の抽出後に残る副産物を利用してバイオエタノールの生産に向けた取組も始まっており、エネルギー原料作物としての期待が高まっています。

本号では、てん菜、さとうきびに係る行政の取り組み、育種・品種、生産・利用技術、産地の特徴的な取り組みについて、ご専門の方々へ広範にかつ詳細にご紹介いただきました。

ご寄稿下さいましたご執筆者の方々に厚く御礼申し上げます。

本特集号が甘味資源作物としてのてん菜、さとうきびの生産振興の一助となり、地域の経済・社会に寄与できれば幸いです。

（佐々木記）

発行日 平成23年11月20日  
発行 財団法人 日本特産農作物種苗協会  
〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目4番1号  
白亜ビル 3階  
TEL 03-3586-0761  
FAX 03-3586-5366  
URL <http://www.tokusanshubyo.or.jp>  
印刷 (株) 丸井工文社